



高齢者の住まいや施設について

超高齢化社会を迎えて、医療を取り巻く政策も目まぐるしく変化しています。高齢者や障害者などが、住み慣れた地域で人生の最期まで過ごせるように、医療と介護の連携による「地域包括ケアシステム」の確立が目指されています。

今後は病院の機能分化が進み、高齢者の施設が増加し、地域で生活していくための療養先が広がっていきます。高齢者向けの施設や住宅には、その目的や提供するサービスの違いなどによってさまざまなものがあります。ここでは、施設・住宅の一部をご紹介します。

介護保険施設の特徴

介護保険施設	費用	受け入れ状況		介護保険の適用	入居難易度	居住スペース
		介護レベル	認知症			
介護老人保健施設	低～中	中～重度	◎	○	高い	多床室多い
特別養護老人ホーム	低～中	中～重度	◎	○	高い	個室～多床室

介護老人保健施設（老人保健施設）

目的・条件	医学的な管理の下で、介護や看護やリハビリテーションの必要な方が入所する施設です。医療処置や内服薬が多いと入所は難しく、要介護の方が対象です。
入所期間めど	3カ月～長期 （施設の基本方針による）
利用保険	介護保険
費用 （1カ月当たり）	要介護度に応じ、費用が異なります。 所得による負担区分により異なります。

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

目的・条件	在宅介護が難しい方が介護を受けて生活する施設（要介護度や緊急性により順番が繰り上がる）です。 原則要介護3以上が対象です。
入所期間めど	限定なし
利用保険	介護保険
費用 （1カ月当たり）	要介護度、多床室か個室に応じ、費用が異なります。 所得による負担区分により異なります。

有料老人ホーム・高齢者向け住宅の特徴

民間施設	費用	受け入れ状況		介護保険の適用	入居難易度	居住スペース
		介護レベル	認知症			
介護付有料老人ホーム	中～高	自立～重度	○	○	低い	個室
住宅型有料老人ホーム	中～高	自立～中度	△	△	低い	個室
サービス付き高齢者住宅	中～高	自立～中度	△	○	低い	個室

介護付き有料老人ホーム（特定施設入所者生活介護）

目的・条件	高齢者に配慮された設備に食事や介護など各種サービス機能が付いた施設です。介護保険の有無にかかわらず入所できます。
入所期間めど	限定なし
利用保険	介護保険もしくは実費
費用 (1カ月当たり)	入居一時金がかかる場合があります。 月々の利用料は、施設により幅があります。

住宅型有料老人ホーム（厚生労働省）

サービス付き高齢者向け住宅（国土交通省）

目的・条件	高齢者に配慮された設備に食事や介護など各種サービス機能が付いた住宅です。介護保険の有無にかかわらず入所できます。
入所期間めど	限定なし
利用保険	介護保険もしくは実費
費用 (1カ月当たり)	入居一時金がかかる場合があります。 月々の利用料は、施設により幅があります。

施設選びのポイント

- ① 立地条件
- ② 費用
- ③ 医療面・介護面・認知症への対応など
- ④ (身体状況にあっているか)
- ⑤ 施設・設備の充実度
- ⑥ スタッフの雰囲気・人柄
- ⑦ どれくらいの期間で入所できるか
- ⑧ 入所可能な期間や退所の条件について

自分に合うホーム選びのためには、できるだけ多くの情報を集め検討することが大切です。



記載の内容は、2024年1月の情報に基づいています。今後の制度等の改定により内容に変更が生じる可能性がありますのでご了承ください。

埼玉県立循環器・呼吸器病センター
患者サポートセンター